

新刊紹介：『知られざる地球』

著者	半田 孝司
雑誌名	静岡地学
巻	51
ページ	19-19
発行年	1985-06-09
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00025514

〈新刊紹介〉

Dr. バラードのサイエンス・ドキュメント『知られざる地球』

Exploring Our Living Planet ナショナル・ジオグラフィック・ソサエティ編

著者 ロバート・D・バラード博士 (Robert D. Ballard)、ウッズホール海洋研究所研究員

日本語版訳者 徳山 明・小澤智生・西村年晴 (兵庫教育大学)

日本語版発行 (1985) 福武書店 変型A 4判、382頁、カラー写真179点ほか、定価7,000円

大洋中央海嶺の探査で知られた海洋地質学者バラードが、我々に美しい科学の旅を案内し、そして豪華な地球科学の舞台を見せてくれるすばらしい本である。ぜひ、一読をすすめたい。

最初のまっ黒なページをめくると見開きの迫力ある大型写真が次々と登場する。それは丁度ステージの幕が開くときの感じである。とりあえずページを繰り、中程をあけてみる。異様な生物が目にと迫ってくる。太陽の光が全くとどかない深海底の生命の世界だ。なぜ、光に依存しないで生活できるのか、それは、海底下深所から湧き出る温泉水に適応して棲息できるのだという。また、そこにすむ或る種の貝は普通の貝と違って赤い血液をもっているという。

近年、海底で発見された、数多くのできごとは、プレートテクトニクスの理論を裏付ける重要な証拠となっている。本書を埋めつくす見ごたえのあるカラー写真やコンピューターグラフィックを駆使した図版は、私達に地球は生きているのだと語りかけるようだ。この本は、メインテーマのプレートテクトニクスとはどういうものか、あるいは不思議な地球について、今どこまでわかっているかを教えてくれる。内容は、惑星地球の再発見に始まり、地球の拡大、ホットスポット、断層と地震、大陸の衝突の各章に大きく分かれており、壮大な地球の神秘を一つ一つ明らかにしていく様子を語っている。日本の地震については訳者の一人、徳山明がとくに加筆している。

昨年アメリカで発売され、話題になった本書の原題名は「生きている我が惑星地球を探る」であるが、あえて、文語調の題名とした「知られざる地球」は読み進んで行く程に納得する。どこを開いても魅力的な映像がいっぱいであり、飽きることはない。一見、写真集という感じであるが、サイエンスであるからは、正確で適切な解説は不可欠である。訳者らの苦心は知るよしもないが、文章は読みやすくわかりやすい。重要な用語の解説も付されており、一般読者にはありがたい。装訂もすばらしく、日本語版を発行した福武書店30周年の記念出版にふさわしい豪華本である。 (半田孝司*)

*静岡大学教育学部